

「通学中の事故の現状と事故防止の留意点」

調査研究報告書

平成 26 年 3 月

独立行政法人日本スポーツ振興センター

学校災害防止調査研究委員会

はじめに

独立行政法人日本スポーツ振興センター（JAPAN SPORT COUNCIL 以下「JSC」という。）では、災害共済給付事業の実施によって得られる事例の収集、分析、関連調査の実施及び関連情報の提供など、児童生徒等の安全を確保するための支援事業を実施しています。

JSCは災害共済給付事業として平成24年度に約112万件の負傷・疾病について医療費等を給付していますが、この給付事業の実施を通じて得られた学校の管理下の災害データを活用し、学校における特徴的な災害発生の実態や防止方策の調査・研究を行い、その成果を学校や学校の設置者に還元することにより事故の未然防止を効率的に図るものであります。

このため、平成20年6月に、JSCに外部の有識者とJSC職員で構成する「学校災害防止調査研究委員会」（以下「委員会」）を設置しました。さらに平成25年度から、専門部会を設け、『通学中の事故の現状と事故防止』『体育活動における熱中症予防』と2つのテーマを設定し、調査研究を実施しました。

近年、通学中の交通事故により児童が死亡する事故などが続発し、通学中の児童生徒の安全は喫緊の課題となっています。

そこで、JSCの災害共済給付の統計をみると平成11年度から平成24年度の14年間に死亡見舞金や供花料など死亡に関する給付1,974件のうち、通学中に発生した事件事故災害は985件で約半数に上ります。

さらに、これら通学中の死亡事件事例のうち、突然死等の内因性の事故を除いた877件についてみると、交通事故701件、地震・津波78件、転倒・転落33件、犯罪被害16件、鉄道事故15件、水面へ転落15件、大雨9件、物体と衝突7件、遊具、落雷、落雪が各1件となっています。

これらから、通学中の事故防止には生活安全（防犯）、交通安全、災害安全（防災）など幅広い観点からの対策が必要です。

本報告書は、通学中の事故について災害共済給付データや外部団体のデータを収集・分析して、事故の状況や傾向など事故予防に必要な事柄と留意点などをまとめたものです。

各学校におきましては、児童生徒等の大切な命を守るため、本報告書を広く活用され、事故防止に努められるよう、心から念願しております。

平成26年3月

独立行政法人日本スポーツ振興センター
学校災害防止調査研究委員会

通学中の事故の傾向と事故防止・対応の10か条

□通学中の事故の傾向

- 学年は小学校、中学校、高等学校の全ての校種に共通して1年生が多く、学年が上がるにつれ減少する。(P8・P14)
- 登下校別では小学校では下校中が60%、中学校は登下中が半々、高等学校は登校中が60%である。(P14)
- 通学方法別で小学校は徒歩の事故が98%で、中学校は63%が自転車事故、高等学校では73%が自転車事故である。(P15)
- 月別では5月、6月及び10月、11月の季節の変わり目に多く、また、学年・月別では各学校種とも新しい環境に慣れていない1年次の5月に多い。(P16)
- 交通事故は「安全不確認」による事故が多く、歩行者は信号機の無い道路、自転車、二輪車は信号機の無い交差点の横断時の不確認が多い。(P30)

□通学中の事故防止・対応の10か条

日頃からの管理と指導

- 1 安全な通学路の設定、登下校は通学路を利用することを徹底、通学路の要注意箇所の把握・周知を行う。 P37
- 2 危険等発生時対処要領（危機管理マニュアル）に基づく訓練等を行い、緊急時の対応能力を高める。 P40, P56
- 3 計画的な安全教育を行い、通学時の危険について理解し、安全に行動できるようにする。 P36, P50
- 4 自転車通学での重大事故が多く、ヘルメットの着用など有効な対策を実施する。 P9, P26
- 5 保護者や警察等の関係機関、地域の関係団体等との連携を図り、地域の人たちの協力が得られる体制を構築しておく。 P40, P56

危険を予測・回避するために

- 6 「通学路安全マップ」、事故の事例、「ひやり・はっと」した場面などを題材に危険予測・回避の学習を行う。 P39, P66
- 7 通学路の状況を随時把握し事故防止対策を策定・実施する。 P39, P68
- 8 災害事例や事故の統計、気象予報情報などを活用し対処する。 P8, P44, P62

緊急事態が発生したら

- 9 直ちに全教職員に周知し、地域の人たち等への支援要請、現場への急行、情報収集と整理など、被害者等の安全確保を行う。 P40, P58
- 10 児童生徒等の状況に応じて、保護者への引き渡しや集団登下校など児童生徒等の安全を確保する。 P40

目 次

第1編 調査研究の趣旨と経過

- 第1章 学校災害防止調査研究委員会及び専門部会の設置 . . . 2
 - I 設置の趣旨
 - II 組 織
 - III 今年度研究テーマ

- 第2章 調査研究のテーマ設定と経過 . . . 4
 - I 調査研究のテーマ設定
 - II 専門部会委員
 - III 調査研究の経過

第2編 通学中の事故の傾向

- 第1章 数値からみる通学中の死亡事故の状況 . . . 8
 - I 事故種・通学方法別
 - II 学年・登下校別
 - III 事故種・登下校別
 - IV 学年・男女別
 - V 事故種・男女別

- 第2章 事例からみる死亡事故の状況 . . . 11
 - I 自転車自損事故
 - II 犯罪被害
 - III 自然災害（大雨）

- 第3章 データからみるけが（負傷・疾病）の状況 . . . 14
 - I 学年別
 - II 登下校別
 - III 通学方法別
 - IV 男女別
 - V 月別
 - VI 部位別
 - VII 事故別
 - VIII 直前行動別
 - IX 要因別

第4章 交通事故の状況	・・・23
Ⅰ 交通死亡事故	
Ⅱ 自転車自損事故でのけが（負傷・疾病）	
Ⅲ 外部データからみる通学中の交通事故	
Ⅳ 通学中の交通事故の現状を踏まえた考察	

第3編 通学中の事故防止の留意点

第1章 学校安全計画の作成	・・・36
---------------	-------

第2章 安全教育・安全管理等	・・・36
----------------	-------

- Ⅰ 通学に係る安全教育
- Ⅱ 通学に係る安全管理
- Ⅲ 登下校時における緊急事態発生時の対応
 - ☒ 登下校時における緊急事態発生時の対応例

第3章 領域別（交通・生活・災害）事故防止の留意点	・・・44
---------------------------	-------

- Ⅰ 交通事故防止の留意点 ～事故統計からみた小学生から高校生までの交通事故発生状況について～
- Ⅱ 犯罪被害防止の留意点 ～通学路の防犯対策～
- Ⅲ 自然災害防止の留意点 ～通学時における気象情報の活用～

参考資料

1. 科学的な学校安全の取り組みを支えるしくみづくりの試み：
『危険なできごとカルテ』と『聞き書きマップ』
2. 通学中の交通事故統計 ―公益財団法人交通事故総合分析センター―

本報告書は、当センターウェブサイト「学校安全Web」にてダウンロードできます。

URL <http://www.jpnsport.go.jp/anzen/>